

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795700026		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家 四條畷 (ユニット1)		
所在地	大阪府四条畷雁屋北15-16		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成28年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2795700026-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の福祉理念「ご利用者本位の優しさと真心のこもったサービス提供」 たのしい家四條畷の理念 ①日々の生活の中で、季節のうつり変わりを感じて頂ける施設 ②職員と一緒に地域の中で新たな楽しみと生きがいを見い出せる施設 ③心から「ほっ」と出来る笑顔あふれる施設 職員全員で理念に基づいた施設づくりをしています
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、盆踊りや運動会等の地域の行事に積極的に参加したり、事業所での夏祭りに近隣の方を招くことで地域との相互の交流を少しずつ深めると共に、毎日の散歩や買い物に出掛けたり春と秋には家族の参加も得て遠足に行く等、出来る限り外出の機会を作るように努めています。運営推進会議には利用者や家族の参加を得て実施し貴重な意見を多く得ており、職員間でも意見を出し合いながら明るい雰囲気を作り、利用者の力を活かした生活や好きな相撲や絵画を楽しみ笑顔で暮らせるように日々の支援に取り組んでいます。庭で季節の野菜を育て食材にしたり漬物を作る他、花を摘んでフロアに飾ることなどで季節を感じられるように配慮すると共に、個々の利用者がほっとできる空間作りに努めている事業所です。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りでコンプライアンスマニュアルと経営理念、施設理念の読み合わせを継続して実行している。	開設当初に法人理念を基に職員間で話し合い作成した独自の理念は、職員の採用面接の際に法人理念と共に事業所理念を説明し理解を得ると共に、毎朝読み合わせをしています。年度初めに法人理念と事業所理念を基に全体目標と個人目標を立てる際に前年度に立てた目標に対する振り返りを行うことで理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、敬老会等は地域の方々にもご参加いただけるよう案内を出している。地域の行事にも積極的に参加している。(盆踊り、運動会、だんじり) 日常の散歩や買い物も地域資源を活用している。	自治会に加入し、運営推進会議や回覧板、掲示板、地域に住む職員から情報を得ています。利用者と盆踊りや地域の運動会を観に出掛けたり、地域のサロンに参加し、事業所での夏祭りやには近隣の方の来訪があります。書道や体操のボランティア等の来訪やベビーセンターの子ども達との交流も行う等、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用様と地域や室外に出で行く事で認知して頂き、地域の方々にも理解してもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見や意向や質問には適時対応させていただいております。(ボランティアの導入等)	会議は利用者や地域包括支援センター職員、家族等の参加の下2か月に1回開催し、利用者の現状やサービスについて報告を行い意見交換をしています。食事はどんな物を食べているのかという意見から次の会議で実際に食べてもらい感想を聞いたり、季節に応じた室温や湿度、衣類等の調整についての意見を職員に再確認を行う等、会議を運営に活かすように努めています。	会議に地域の方の参加が得られにくい状況ですが、継続的な呼びかけや告知をはじめ、参加してもらえる方を検討するなど、働きかけにより会議に地域の方の参加が得られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括、社会福祉協議会、高齢福祉課の方々から情報を頂いたり、ご相談にのって頂いたりしている。 ・包括からボランティアの紹介 ・ご利用者の金銭管理の相談	行政の窓口で運営上の相談や報告で訪問したり、不明点等の確認を電話やメールでやり取りを行っています。行政の行う事業所連絡会が定期的な出席したり、研修の案内が届き可能な時には参加を検討し、行政と協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて身体拘束の理解を深め、法人の指針にもある拘束をしないケアに努めています。	入職時の研修や年1回法人の身体拘束に関する研修に職員の代表が参加し事業所で伝達研修を行い事例を基に不適切な支援や言葉による制止等について具体的に説明しています。センサーマットは利用者の安全のための使用であることを職員が理解し、玄関は常時施錠しフロア入口は夜間と状況により昼間も施錠することがありますが、利用者の様子を見て寄り添い外出して気分転換を図る等、閉塞感を感じ無いよう支援に努めています。	

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて、理解を深めています。社会的な事件や法人内での虐待事例について話し合いを持っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を通じて理解を深めています。 現在施設ないで後見人制度を利用されている方もおられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、会社・事業所の理念、運営方針、料金等の説明を十分に説明をし納得頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設来訪時、運営推進会議の時ご意見やご要望を出して頂いています。法人で年一回満足度アンケートも行っております。	法人で実施する満足度調査や面会時に家族から意見や要望を聞くように努め、また運営推進会議に利用者と家族の参加があり多くの意見を得ています。毎日面会に来る家族もおり、意見を言いやすいような雰囲気作りにも配慮しています。家族から掃除についての意見をもらい念入りに実施するように取り組む等、意見を運営に反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業者内で月一回会議を開催し従業員の意見や提案を聞いています。法人内で従業員満足度アンケートも行っています、他に『業務改善提案書』従業員から直接社長へ行くものもあります。	月1回の全体会議や毎月実施するフロア毎の会議で職員から意見を聞いています。行事の計画や職員が気になっていること、ヒヤリハット等について話し合い運営や支援に活かしています。会議に不参加の職員には議事録を読んでもらい意見を出してもらっています。法人で行う従業員満足度調査や業務改善提案書で意見を伝えることもできる他、年2回の個別面談の実施等、意見を聞く機会を多く作るように努め運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度として『誰伸び人事考課』を採用しており、マイナスではなく昨年より伸びた部分の評価をしています。 事業所単位の業績により、業績一時金を支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自のキャリア段位制度を採用している。 個人での目標設定をしてトレーニングや研修受講を促している		

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGHの管理者・計画作成担当者・フロアーリーダーの会議・研修が定期的で開催されており、情報交換や勉強会によりサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子や発言に注意をはらい、安心できる雰囲気づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学を必ずして頂き、施設の雰囲気や職員の対応等を実際体感していただき、不安な事や要望を出来るだけ伺ったり、言いやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や現状等を伺い、必要と思われる方にサービスを導入をしている。他サービス利用も含めた対応が必要であるケースはなかった。在宅サービスを利用後、入院でADLの著しい低下で入居希望される方がほとんどでご家族の負担増大しているケースがほとんどだった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態を見極め、出来る事はご自身でして頂き、出来ない事だけを支援させて頂いている。また、人生の先輩として尊敬し、その人らしさを引き出さる様な声掛けや対応に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にお聞きした生活歴や職歴、ご本人の望むことを施設で生かせるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を幅広く設け、馴染みの関係を継続できるよう努めています。ご本人やご家族から情報収集し馴染みの場所へ出かけたりしています。	遠方の親戚や近所に住んでいた知人等の来訪時には居室やリビングに案内し、お茶や椅子を準備しゆっくり過ごせるように配慮しています。利用者の以前出かけていた場所を聞き個別や複数人で商店街や飲食店に外出したり、水族館や紅葉を観に行くなど、馴染みの人や場との関係継続の支援をしています。また家族と外食や墓参りに行く利用者もいます。	

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様子観察し雰囲気を見て職員が間に入ったり、孤立しないように、声掛けや雰囲気づくりに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても関係性を大切に出来る様努めています。ご相談には随時対応できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が出来るように毎日のコミュニケーションから、ご本人の希望を感じ取ろうと努めています。	入居時に自宅や施設に訪問し面談で生活歴や趣味、思いや希望等を聞いたり、以前に利用していたケアマネジャーからも情報を得て意向の把握に努めています。入居後は日々の利用者との関わり合いの中で希望や思いを汲み取り、毎月の会議で職員間で意見を出し合い検討したり、困難な場合には利用者の一日の様子から思いを理解するため24時間シートを使用したり家族にも確認することで本人本位に思いや希望の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に生活歴等を聞くようにし、施設でも継続できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度のカンファレンスで一人一人の1日の過ごし方を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間のカンファレンスや訪問ドクター、訪問看護師、ご家族のご意向や意見を聞き、ご本人のニーズにあった計画を立てています。	アセスメントを基に作成された介護計画は入居後初回は3か月程度で見直し、その後は個々の状況に応じて6～12か月毎の見直しをしています。およそ3か月毎にモニタリングを実施し、利用者の状態に応じて随時の見直しに繋がっています。見直し時には再アセスメントを行いサービス担当者会議を開き、事前に聞いた家族や看護師、医師の意見を介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録による各ご利用者の把握と事故報告書やヒヤリハット報告書も両ユニットで情報共有して計画書への反映や事故防止に努めています。		

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な思考を養う事や問題解決能力を養う研修を行いサービスの質の向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に積極的に参加している。運営推進会議や地域採用の職員、広報誌、掲示板、商店街のポスターなどで地域の情報を収集している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる月2回の内科受診をして頂いています。緊急の対応や他科は紹介書が書いていただき適切な医療を受けれるよう努めています	入居時に協力医の往診に変更するか、これまでのかかりつけ医を継続して受診するかを選択してもらっています。これまでのかかりつけ医や専門医の受診は家族による対応を基本とし、状況に応じて職員が対応することもあります。緊急時は協力医に24時間連絡が可能で必要な指示を受けています。週1回訪問看護師の健康チェック受け、歯科は希望や必要に応じて口腔ケアや治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問介護師による健康管理をして頂いています。職員との連携、ドクターとの連携をとって頂きご利用者の体調の変化に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にホームドクター、施設から情報提供しています。退院時も訪問看護師と連携をとり退院時カンファレンスを実地しています。入院～退院～施設帰所の環境変化によるご利用者のダメージが出来るだけ少ないように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期指針の説明をしています。終末期にはご家族・ドクター・看護師・職員とカンファレンスを持ちチームでのケアをしていきます。	入居時に家族へ看取りの方針を説明し事業所として対応可能なことを伝えていきます。これまでに看取りの経験はありませんが、重度化が進んだ利用者には、家族と職員、医師で話し合い看取りの介護計画を立てて支援に取り組んでいます。法人での看取りの研修に職員の代表が参加し事業所で内容の伝達を行い、今後のケアに活かすように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の緊急時対応研修と消防署による緊急救命講習の受講も推奨しています。		

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実地と緊急時のマニュアルを職員に周知し携帯しております。	訓練は年2回それぞれ昼夜想定で実施し、少なくとも内1回は消防署立会いの下で利用者も参加して通報や避難誘導、水消火器を使用した消火訓練を実施しています。運営推進会議の開催に合わせて訓練を実施して家族の参加を得るとともに、訓練実施時には近隣へ告知を行い、事業所の両隣の方には災害発生時の協力を依頼しています。水や食料等の備蓄をしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのご利用者様に敬意を持ち、その方々に寄り添い尊厳と尊重を忘れないよう対応させていただいていますが、安全を第一に考えています。	年1回接遇マナーの研修を実施し、敬語を使用し苗字での声かけを基本としています。苗字が同じ方には家族の許可を得て下の名前で呼びかけを行うこともあり、利用者に応じた言葉かけを実施しています。排泄支援時は声の大きさに配慮し、不適切な対応があればその都度注意しフロア会議でも注意しています。希望があれば出来るだけ同性介助を行う等差恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話を傾聴し、ご本人の思いや希望をお伺いするよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のしたいことをコミュニケーションから引き出し、希望を叶えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約月に1回訪問理容を利用し整容に努めています。毎日お化粧をされる方の支援もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を出来るだけしていただいています。配膳、下膳、食材切り、畑からの収穫での調理などをしていただいています。季節行事にあった食事の提供もしています。	業者から献立と食材が届き、事業所で食事を作っています。月1回は行事食として利用者の希望を聞き事業所で考えた献立で食事作りをしています。利用者には食材を切ったり盛り付け等のごことに携わってもらい、職員も同じテーブルと一緒に食べ和やかな食事時間となるよう支援しています。おやつを利用者と買いに行ったり、寿司の出前や年数回外食に出掛ける等、変化のある食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し変化のある方は医療と連携をしたり、栄養状態が偏らないように努めています。		

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。週1回口腔ケアに来ていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄能力を見極め、個々の排泄パターンを考慮し声掛けや誘導の介助を行っている	利用者毎に排泄の記録を取り個々のパターンを把握し、しぐさや様子も見ながら出来るだけトイレでの排泄が出来るように利用者に応じた声掛けや案内を行っています。会議で個々に応じた排泄用品の種類や排泄支援の方法を検討し、排泄状況の維持や自立に向けて失敗が減らせるように利用者に応じた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や散歩、レクリエーションを行い体を動かしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日にて入浴日を決めていますが、本人の体調や希望に応じて柔軟に対応しています。	入浴はおおよそ11～15時の時間帯に週2～3回を基本としていますが、希望に応じて毎日や夕食前の入浴支援も可能です。入浴拒否が見られる利用者には声掛けを工夫し入浴に繋げたり、無理な場合は清拭や足浴に切り替えています。好みのシャンプーやリンスも持ち込まれたり、ゆず湯をしたりマンツーマンで会話も楽しみながら入浴してもらえるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調にあわせ、午眠して頂いたり、昼夜逆転にならないように注意し安心して休んでいただける様努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を職員が確認できるようにしています。薬の変更などは申し送りで伝達しています。薬の副作用やその後の症状についても薬局や医師との連携をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の作業を共同ですしています。楽しみのある生活をしていただけるよう、書道・パステルアートのボランティアや地域の行事参加やベビーセンターとの交流等しています。		

グループホームたのしい家四條畷(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨の日以外は毎日散歩や買い物に出かけています。ご家族との外出も進めています。	特定の利用者に偏ることの無いように毎日散歩や買物に外出したり、日々事業所の庭にあるベンチで外気浴を楽しんでもらっています。また春と秋に遠足へ出掛けたり、近くの神社への初詣、市民会館へコンサートを観に出掛ける等、出来るだけ外出の機会を多く作るように努めています。家族と外食やウインドウショッピング、墓参りに出掛ける利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は施設にてお預かりしています。ご自身で少額の現金をお持ちの方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはしています。ご本人が希望されれば電話をかけていただいています。年賀状・暑中見舞いを書いていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除はご利用者様と一緒に毎日しております。庭や玄関や畑に季節の草花をそだてたり、施設内の装飾を月替わりでご利用者様と創ったりしています。	桜や朝顔、ひまわり、クリスマス等の季節毎の飾り付けを行い季節を感じる飾りつけや、利用者が書いた習字やパステルワークを掲示して温かい雰囲気を作っています。椅子やテーブルは利用者同士の相性や体調も考慮して配置しています。カーテンで採光を調整したり、利用者の体感も考慮して室温を調整し、利用者もモップ掛け等に携わりながら毎日清掃を行い快適に過ごせる共用空間を作り努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はフロアで過されることが多いですが、ソファーに座られたり、食席でテレビを観たり、自室で過される方自由にされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の時に馴染みのあるものをお持ちいただいています。入居後は行事の写真や皆で作った制作物等を飾ったりしています	入居時に馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、テレビや筆筒、手芸の作品、家族の写真、仏壇等の大切にしていた物を持ち込み、家族と職員が相談しながら配置しています。絵画や相撲の番付表を掲示して楽しんでいる利用者がいたり、希望に応じて布団を敷いて休むことも可能で個々に合わせて暮らせるよう支援しています。利用者も出来ることに携わりながら毎日掃除を実施し、その人らしく快適に過ごせる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには名前を付けています。		